えくてびあん

6
立川と語ろう　立川に生きよう
June 2006
écoutez bien Vol.24 No.259

表紙の人／加藤栄子（錦町）　写真／細江英公

MURAGOYOMI
われらの村暦
国営昭和記念公園
「こもれびの里」の1年 ⑪

写真：五来孝平

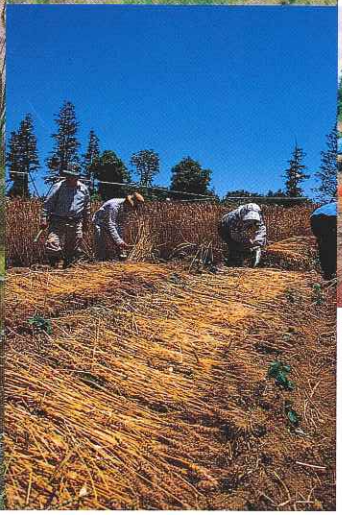
田植え

**畑と水田のあるこもれびの里は麦の刈り入れと田植え時期が一緒にやってくる。
里人総出で作業をしても、猫の手も借りたい忙しさ。
田植えが終わればすぐに草取り。
陽射しや暑さもきつくなるが、
今流す汗が秋の稔りへとつながる。**

樹々の緑が日に日に濃くなってくると、大麦や小麦の穂が色づく。麦秋。畑の作物もぐんぐんと伸びて、里は気持のいい農園風景になる。鳥除けに張った網を外して麦刈りが始まる。麦の株をまとめては鎌で刈り取り、大きな束にして脱穀を待つ。

昨年より大幅に拡張された水田では、田起こし、代掻きに精を出した田んぼに、いよいよ苗を植える。ここでは昔ながらの人手による田植え。目安の縄を張り、総出で田んぼに入り苗を植えていく。しっかり植えない苗は、水を張ると浮き上がってしまう。

こもれびの里では農薬を使わない。虫やミミズ、トカゲといった小さな生き物たちがふつうに姿を見せる。流れる汗をぬぐい、泥にまみれ、腰の痛みをこらえて、ようやく田植えが終わる頃には、植えたばかりの苗でイトトンボが羽を休め、どこからか蛙の声が聞えている。



馬目（まのめ） 久（ひさ）さん（東大和市在住）

狭い空き地を使えた家から高層住宅に移り、土に触れる機会がほしいなと思っていた時に、こもれびの里ボランティア募集を知って参加しました。植生班に入ると漠然と想像していたのとは大違い。木の名前を覚えるのが大変でした。雑木林を育てるのは10年、15年がかり。その分、長い間関わっていけそうです。

悩みを共有し支え合う

於：曙町 えくてびあん編集工房　　写真：五来孝平

立川麦の会（立川精神障害者家族会）会長

真壁 博美さん

■真壁 博美（まかべ・ひろみ）／お嬢さんの統合失調症をきっかけに精神障害者家族会「立川麦の会」を設立。本年4月に18周年を迎えた。小学校の教員として多忙な生活を送りながら「麦の会」を大きく成長させてきた。退職された現在は、立川市障害者後援会理事、東京都精神障害者家族会連合会の理事も兼務している。ご主人は立川市立南砂小学校長の真壁繁樹氏。

■清水 恵美子（しみず・えみこ）／えくてびあん編集人

清水　こんにちは。先日、栄町の方がいらして南砂小学校の校長先生はとってもおもしろい方だから一度会った方がいいっておっしゃるんですよ。校長先生のお名前をうかがったら「真壁」さん。ご主人様なんですね？

真壁　そうなんです。よその方はおもしろいって言ってくださるけれど、家族はねえ……。

清水　発想がすばらしいっていうか、人の思いつかないような事なさるそうですね。2月にはテレビ会議システムを使ってモンゴルの子どもたちと南砂小学校の子どもとの囲碁対決をしたとか。

真壁　ええ、囲碁棋士の梅沢由香里さんが卒業生だというご縁もあってね。それに先立ってモンゴルにも行ってきたんですよ。

清水　ご一緒に？

真壁　ええ、もちろん。うちでは海外旅行は私ばっかりで、夫は今回が初めて。

清水　それがモンゴル！

真壁　そう！ 初心者にはちょっときついかなあって思ったんですけどね。

清水　で、大丈夫でした？

真壁　いえいえ、夫は水が合わなくて苦労したみたいでしたよ。ウランバートルから列車で12時間のところにあるエルディネットという街から、車で40分行ったところの遊牧民のお宅にホームステイさせてもらったんです。ホームステイって言ってもゲルの中。

清水　なかなかできない貴重な体験ですよね。

真壁　夫は西砂小にいた時には豚を飼ったんです。西砂には養豚をしていらっしゃる方がいて、そこから子豚をあずかって100キロになったらお返しするっていうことで。近所から匂いで苦情が来ないように、群馬県まで勉強に行って飼料に木酢液と炭を混ぜて食べさせたりしてました。そうすると糞も臭くないんですよ。

清水　へええ。ご主人は勉強家なんですね。

真壁さんご夫妻と立川の関わりはいつからですか？

真壁　娘が5歳のときからですから、えっと28年かな？

清水　ずっと砂川？

真壁　ええ、最初8丁目、今は7丁目です。

清水　精神障害者家族会〈立川麦の会〉設立が1989年の4月。きっかけは何だったんですか？

真壁　娘の発病がその前年の5月だったんです。娘は当時14歳、中学3年生だったんですね。統合失調症になって、はじめは医者に通うしかなくて、でも病状は思わしくなくて。5月に発病して11月にはもうとても家で看られるような状態じゃなかったんですよ。それで八王子の病院に入院させたんです。そこで保健所を紹介されて初めて立川保健所に行ったんです。そこで保健婦さんから家族教室やってますからってお話をいただいた。12月には夫が出席して、89年1月に私が家族教室に出席したとき、参加者のみんなが共同作業所が欲しいよねって言ってたんですよ。

清水　障害者が昼間通う……

真壁　ええ、当時は何もなかったんです。やっぱりねえ、昼間から家にゴロゴロされていると、言いたかないけどついつい何か言っちゃうんですよ、家族も。だから昼間通えるようなところが欲しいってね。それで、初めて参加した会なのに、私言っちゃったんですよ。きちんと会を作って市に要望していかないとって。その場で家族会を作る準備委員を募って、3ヵ月で会ができちゃった。

清水　すごいですね。パワフル！ そこから活動が始まって……

真壁　最初に共同作業所柿の木カンパニーができて、棕櫚亭の第二と第三ができて、Marquee（マーキー）ができ……今では通所施設は4ヵ所、グループホームは5ヵ所ですね。それと生活支援センターが1ヵ所。

清水　大きな力ですね。

真壁　そうね。でもまだまだ、声に出していかないとできないですよ。私が教員を退職したのは6年前で、それから麦の会の宣伝に力を入れるようになったんですけど、一昨年新しい会員が12人増えました。で、去年が16人増えたんですよ。だから会員63人のうち3分の1は、ここ2年で入ってきた人たちなんです。

清水　精神障害者を抱える家族が多いってことですね。

真壁　多いですよ。いつ誰がなってもおかしくない。精神科のお医者さんは大変です。患者が多いから。

清水　真壁さんご自身、今までで辛かった時期というと？

真壁　やっぱり娘が発病して、保健婦さんから家族教室につなげてもらうまでですね。そこで初めて安心したというか、道がついたというか。

清水　今は、麦の会につながれば安心への糸口が得られるわけですものね。

真壁　ええ。家族ゼミナールっていうのをやってるんです。今回で4回目なんですけど。1クールが7講座。私たち家族がリーダーになって、定員10名で精神障害者を持つ家族が勉強し合い、支え合うわけです。統合失調症はどんな病気かとか、治療についてとか、家族の接し方などを勉強するんです。

清水　そこに参加すると一通りのことが理解できてくるというわけですね。

真壁　そうです。そちらは家族だけですけど、年に一回行われる講演会には一般の方たちにも呼びかけています。

清水　そういうお忙しい中、ご趣味で山へ登られるとか？

真壁　ええ。今年の夏にはヨーロッパアルプスへ行くんですよ。山の会にも入っています。ふだん忙しいから、年に一度は電話もなにもかも忘れてゆっくりしたいなって……。三多摩演劇を見る会にも入ってるんですよ。

清水　多趣味というか、本当にいろいろなことをなさってるんですね。

真壁　でもね、こういうことをやってきたから会の活動もやってこられたんだと思うんです。

清水　そうかもしれませんね。お嬢さんが具合悪くなった時も教員をお辞めにならなかったんですよね。

真壁　最初は辞めようと思ったんです。でも、私が退職して娘が治るのならもちろん辞めますが、いつ治るともわからない。それで待ったがかかったんです。後から考えたら、辞めなくてよかった。あの時に辞めていたら娘と一緒に私もきっとだめになっちゃったと思います。娘と離れている時間、娘のこと以外に他のことも考えていられたのがかえってよかったのかもしれません。

清水　もうすぐ麦の会も20年を迎えていくわけです。今後の活動目標は？

真壁　この病気はこれからも減ってはいかないと思います。たまたま障害を持っていても、みんなと一緒に安心して地域で暮らしていけることを今後も目指していきます。

清水　そうでないという部分も今までにはあったわけですか？

真壁　まだまだ、今でもそうだと思いますよ。偏見とか。事件があるとね、犯人が精神科に通っていたって報道するでしょ？ ああいう報道のしかたが、精神障害者は何をするかわからないという偏見を助長することになるんです。

清水　そうですね。内科や耳鼻科に通っていたっていう報道はないですものね。

真壁　ええ。家族の中には親戚にも言えないっていう人もいます。カミングアウトすることが最初の一歩だけど、そこまでがなかなかできない。家族自身の中の偏見というものもまだまだあるんです。こうしたことにも、講演会などを通じて今後も取り組んでいきたいと思います。

柴崎町

紙匠	雅	柴崎町2-2-19-1F 548-1388
	ビストロすぎ浦	柴崎町2-2-23-1F 525-9929
ステーキ＆欧風料理	クワトロ	柴崎町2-3-3 528-2983
Casual Restaurant	ラ・バンバ	柴崎町2-3-3 524-5800
Pasta Frolla 立川南口店		柴崎町2-3-3 540-8033
不動産	ユウ都市企画	柴崎町2-3-13 528-2566
	United Leaf	柴崎町2-3-13 523-0799
甘味処	石や	柴崎町2-3-15 524-0862
	KIT'S SHOT BAR	柴崎町2-3-20-2F 522-8718
不動産	コマツホーム	柴崎町2-4-6 525-5811
喫茶	キャリー	柴崎町2-4-7 528-2630
かみゆい処	わ	柴崎町2-4-8 522-8202
	芹沢ガラス店	柴崎町2-4-8 522-3065
お茶・海苔	小室園	柴崎町2-4-8 522-2894
ファッションハウス	ホマレヤ	柴崎町2-4-15-1F 525-2788
ジョイフルプラザ	スクエア	柴崎町2-4-17-1F 528-4250
服地・洋裁材料	藤レディース	柴崎町2-4-19-1F 528-5101
純中国料理	北京大飯店	柴崎町2-4-19-2F 522-6393
	田中星美堂薬局	柴崎町2-5-3 522-3913
特むし銘茶・海苔	菊川園	柴崎町2-5-6 526-2035

えくてびあんの輪

立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあんは
リストのお店にいつもあります

今月は 柴崎町のお店です。

柴崎町

	ジョイフルプラザ	柴崎町2-5-8 529-2772
Cafe	COLORADO	柴崎町2-5-8 526-2285
レストラン	LouLou	柴崎町2-5-8-2F 548-0488
日本空手道	佐藤塾	柴崎町2-6-6-2F 548-7460
株式会社	立川紙業	柴崎町2-7-6 527-6111
	フューネラル21	柴崎町2-8-9 540-2821
写真の	エース	柴崎町2-9-2 523-0851
Fashion	You Me	柴崎町2-9-28 523-1640
生活雑貨	EAST END	柴崎町2-9-31 523-9636
	石原薬局	柴崎町2-10-3 523-4067
食遊堂	すわ駒	柴崎町2-10-3-1F 526-3908
豆腐	やざわ屋本店	柴崎町2-10-14 522-4338
立川中医整体	健身院	柴崎町2-11-21 522-0050
サイクルハウス	輪輪館	柴崎町2-12-17 522-8100
ビジネスHOTEL	クボタ	柴崎町2-12-23 522-1122
	いなげや 立川南口店	柴崎町2-12-24 526-2947
株式会社	正盛堂	柴崎町2-17-6 522-2328
いなりずし・のり巻きずし	松月	柴崎町2-17-20 523-4758
	小林歯科クリニック	柴崎町2-21-12 527-8217
ビューティーサロン	ウィスタリア	柴崎町2-21-15 527-1116

建物の上にある「浮游の庭」。
池にはメダカが泳ぐ。

中心街の隣に広大な芝生「ゆめひろば」が広がる

歩行者専用の「みどり橋」を渡ると
公園のシンボル・噴水などに続く立川口に

VIEW

みどりの昭和へようこそ！

国営昭和記念公園みどりの文化ゾーンと昭和天皇記念館

国営昭和記念公園に昨年 11 月オープンした
「みどりの文化ゾーン」が新緑の美しい季節を迎えた。
広い芝生と、屋上に庭園のある「花みどり文化センター」、
その一角に昭和天皇のご生涯と生物学者としてのご研究などを紹介する「昭和天皇記念館」がある。
旧陸軍の飛行場から米軍基地、軍都から商都。
昭和の激動を経て自然がよみがえった公園と、変貌する立川の新しいシンボルゾーンだ。

写真：五来孝平

JR 立川駅北口から歩いて10分ほど。ファーレ立川のビル街の隣に新しく「みどりの文化ゾーン」のあるあけぼの口ができた。広い入口を入るとすぐに公園の総合案内所。木立に囲まれた広い芝生の向こうに、屋根の上に自然の丘が浮かんだような「花みどり文化センター」が見える。

「花みどり文化センター」は不思議な建物だ。さまざまな大きさの白い筒状の柱が屋根を支え、芝生を囲むようにゆるやかにカーブした壁はガラス主体で外の風景を取り込む。屋根の上は自然の丘のように起伏のある「浮游の庭」。

建物内は情報コーナーや図書コーナー、カフェ、ミュージアムショップ、ギャラリー、研修室、講義室などが回廊に沿って並ぶ。昭和記念公園の自然再生の軌跡や、公園内の草花、昆虫、「緑の文化」に関連したテーマ展示のほか、有料でさまざまな展示会、催しに貸し出しもする。

センターの奥まった一角が「昭和天皇記念館」。ここでは昭和天皇の87年のご生涯をゆかりの品々や写真、資料などでたどるとともに、皇居内の生物学御研究所の一部を復元し、採集された標本類や顕微鏡、著書などで生物学者としての一面に触れることができる。開館を記念して昭和３年の即位の礼で使用された儀装馬車１号（特別御料儀装車）も展示中。

国営昭和記念公園そのものが、昭和天皇ご在位50年の記念事業として設置された。60余年に及んだ昭和という時代がどこか懐かしい響きを持つように、新たにオープンした約 8ha の新ゾーンは〈花とみどりと文化〉の香りに、やすらぎを感じる。

※みどりの文化ゾーンは昭和天皇記念館を除き入園無料。昭和天皇記念館は大人 500円・大高生 300円・中小生 100円（団体割引あり、月曜休館）。開園・開館時間は午前9時30分～午後5時（11月～2月は午後4時30分閉園、昭和天皇記念館の入館は閉館 30 分前まで）。

昭和天皇記念館の展示室

精巧な即位の礼お列の復元ジオラマ（部分）

ここでしか売っていない菊の紋章入り「うどん」

復元された生物学御研究所

立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ
多摩てばこネット
http://www.tamatebako-net.ne.jp/
多摩てばこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武藤ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

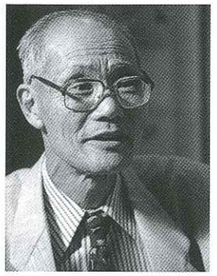
常楽我浄
真如苑提供番組<じょうらくがじょう>
スカイパーフェクTV 216ch、マイ・テレビ 84ch
土　曜　午前9時～9時15分
　　午後7時15分～7時30分
再放送／火曜　午前9時～9時15分
　　午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。
立川に育てられて七十年
真如苑
柴崎町1-2-13 Tel.527-0111(代)

立川産の
朝採り野菜を
食卓へ
5月～9月　12：00～18：00
10月～2月　12：00～17：00
休日　日曜・祭日
JA東京みどり 幸町直売所
〒190-0002 立川市幸町1-14-1
Tel 042-536-2439

私たちは「と」のための会社です。
人と人、企業と企業、企業・商店とお客さま……
いろいろなコミュニケーションがあります。
私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、
行なっている会社です。
と
大廣社は、企画デザインから
印刷加工までを自社内で行っています。
PLANNING・DESIGNING
PROCESSING・PRINTING
㈱大廣社
042-527-1911
〒190-0022
東京都立川市錦町5-17-13
FAX.527-1949
E-mail info@daikousya.jp

えくてびあん流

谷川水車さんを悼む



俳人で元立川市文化連盟会長の谷川水車（本名・清）さんが4月5日亡くなられた。享年89歳。風邪をこじらせて入院とうかがっていたが、歩行訓練もしてお元気とのお便りに半ば安心していた矢先だった。4月初め一時帰宅され、その夜はおひとりで泊り、翌日に病院に戻られてから容態が急変されたという。

昭和52年に校長を退職するまで40年間小学校の教師をされた。同時にやはり小学教師で俳人、平成12年に亡くなられた妻・やまやのぎくさんとともに「曲水」同人として半世紀活動されてきた俳人であり、結社ではなく市民の自由参加による立川市民俳句会を立ち上げ50年近く続けられた。根川緑道沿いなどに立川ゆかりの詩句歌碑を建てる「詩歌のみち」の推進役でもあった。

若輩で、俳句もよくしない私が谷川さんを知るところは少ない。が、毎号の『えくてびあん』が出る度に丁重な感想と励ましのお便りを頂戴した。このような人に会ってみてはどうかと、危なっかしい編集人に手を差し伸べてくださったことも幾度。恒例の「えくてびあんパーティー」ではいつも締めのご挨拶。身に余るおつきあいをいただいた。

会報『遊歩道』第91号を出された後の3月、市民俳句会解散のご通知をいただいた。自ら担ってきたものに幕を引き、想い出多い自宅でひとり一夜を過ごし、卒然と逝かれた。見事としか言いようがない。まだまだお話しもうかがいたかったし、あの笑顔にお会いできないのはさびしいけれど、水車さん、さようなら。ありがとうございました。

「詩歌のみち」の句碑に、ご夫妻の句が並んで刻まれている。

春を待つ路傍の石の一つ吾　水車
どこよりも小学校のさくらかな　のぎく

（芳賀敏博・えくてびあん編集人）

この人この店 ㉟

akari

店長　津村和幸さん

和のスタイリッシュな空間といえばakariです。多摩モノレール下を北に向かうサンサンロード。車の通らない遊歩道に面したオープンカフェスタイルのダイニングバーです。「飲食店ですから料理のおいしいのはもちろん、プラス空間の魅力を感じてもらえたら」と店長の津村さん。どの席を選んでも、一度座れば津村さんのおっしゃる意味がよくわかります。柔らかく包み込まれるようなソファの深い座り心地は、我が家のリビングにはない上質なくつろぎを与えてくれます。ムードある照明の中でしっとりとした時間の流れを楽しむこともできれば、明るい日差しと清々しい風を感じてテラスでお茶をいただくことも。名物akariロールは牛肉の時雨煮とアスパラの天ぷらをキムチで巻寿司に。瑞々しさの中にコクがあって、ついもう一つ。極上和牛のにぎりはさっぱりいただけます。何をいただいても、洗練された空間にふさわしいお味でした。

名物 akariロール 980円と
極上和牛のにぎり 2貫 590円

〒190-0012
立川市曙町2-42-23アーバンライフ立川
TEL 042-521-7221
営業時間　11:30～15:00 (L.O)
　　18:00～22:30 (L.O)
日・祝日　11:30～15:30 (L.O)
　　18:00～21:30 (L.O)

写真撮影：五来孝平

◆ タチカワ誰故草（たれゆえぐさ） ㉟ ◆

アリストテレスの責任

森　忠明

本誌編集部の美しい女性が、
「去年、森せんせいが講演にゆかれた田園調布高校は私の母校です」。
とおっしゃったので、
「それじゃ次の号であなたの後輩たちのことを書こうっと。失礼ですけどお名前は？」
確認事項としてたずねたら、美しい女性はやや仰け反り、迷惑そうな顔をされ、
「森せんせいは何でも（実名で）書かれちゃうんですもの」。
いやだわ、やめてね、ということらしかった。
この連載はあと一回で終了するが、今までに二、三回、編集長から「実名をイニシャルに直したい」と申し込まれた。
〈文章というものは、何千年間でしょうか、文字がはじまった瞬間からごく最近にいたるまで、ほとんどすべての国において、検閲下にあったのです。（略）ライターとセンサーというのは、互いに文句を言いながら一緒に暮らしている仲の悪い夫婦のようなものだったのではないか。そして文章の技術はセンサーシップのもとで鍛えられてきたのだ〉（清水幾太郎氏）。
筆者（わたし）もそう考える。故に編集長（センサー）に従った。

挿画：野崎義成

都立五日市高校生の頃、私はサルトルとアリストテレスばかり読んでいた。二人のうちのどっち**かが**〈あらゆる文学作品の登場人物は実名でなければならない〉と、根拠説明抜きで書いていたはずで、その断定調が以後の私を規定してしまったのである。多分、後者だと思い、アリストテレス全集（岩波書店・全17巻）を中央図書館で割と丁寧に読んでいるのだが、『詩学』にも『虚偽論』にも『大道徳学』にも『問題集』にも、あの一句が見つからない。

師のプラトンが神秘主義的だったのに比すると、彼は卑近重視の現実主義者だったそうだから、あの手のことは言う気がする。

大学時代に読んだ『カラマーゾフの兄弟』の長男ドミートリイが弟アリョーシャに向かって吐くセリフ――〈たいていの女は露骨な話を好むもんだぜ、おぼえとけよ〉が、私の規定、思いこみに重みを加えた。

記録文学においては無論、演劇や小説における仮称人物に「第三者」的遠隔を感じてしまう私は、複数のキャラを〝全知の話者〟という神のごとき、本来アリエネー視点で描くことを自明とするかのような作者が、お歯に合わない。たしかに実名使用は露骨に傾きがちゆえ、〈上品なニュアンス〉に欠けるけれど、切れば血が出るような作品を望む者には、その非芸術性さえ許せるであろう。

一例として――〈田園調布高校での講演料は東京都知事の名によって支給された〉と記すよりも、〈二万六千円の金を受け取るのに五、六回も住所氏名を書かされた紙の全てには、石原慎太郎の名がデカデカと印刷されていた〉と書くほうが面白いではないか。

表紙の人

加藤 栄子さん（錦町）

「無門庵」の出発は昭和初期に創業した高級旅館。陸軍将校の専用旅館として隆盛をきわめ、戦争末期には特攻で散っていく少年兵たちが出撃前の一夜を過ごした。昭和62年に旅館としては閉じたが5年後に懐石料理店として再出発。立川の文化拠点を目指すギャラリー部門を担うのがこの人。樋口一葉「たけくらべ」直筆原稿をはじめ、創業者・小林実（無庵）が蒐集した書画骨董を展示するほか、絵画、彫刻、陶芸、染織など現代の若手作家を個展やグループ展で積極的に紹介している。その眼力と企画力は確かだ。白壁の蔵を活かした小さなギャラリーから立川文化を発信する。

錦町 無門庵で　写真：細江英公

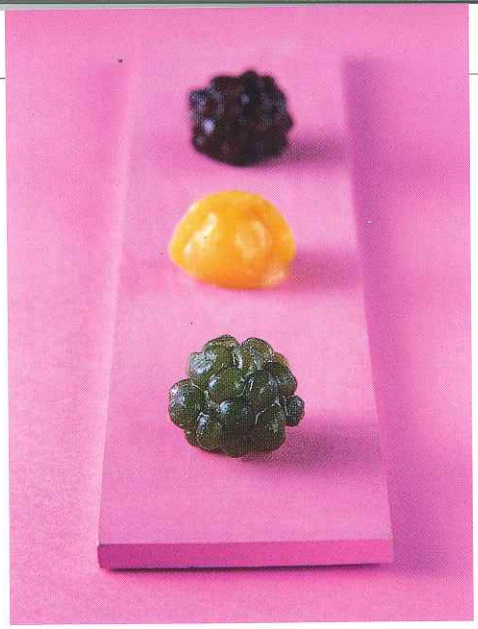
かたこと

ハナミズキの花が終わり樹々の若葉が濃さを増し、エゴノキの花がこぼれ、八百屋に青梅やラッキョウが並ぶと、すっかり夏めきます。間もなく梅雨の時期が気になってきます▼瑞々しい新緑の時期はやはり屋外が楽しい。4月23日には国営昭和記念公園や立川の街のあちこちから音楽が流れる「たちかわみんなの音楽祭」が開かれました▼かつての米軍立川基地が、都市部では貴重な自然ゆたかな公園、スポーツや文化の場として親しまれています▼VIEWは同公園の新区画として昨秋オープンした「みどりの文化ゾーン」をご紹介しています。その一角には「昭和天皇記念館」。来年から4月29日が「昭和の日」に、これまでの「みどりの日」は5月4日になるそうですが、やはり昭和には新緑の時期が似合います▼緑の季節を楽しめるのも生きて健やかであってのこと。からだはもちろん、心が楽しめなければ楽しくはない。心を病む人が増えています。対談していただいた真壁博美さんは、障害者やその家族の立場から、心に障害のある人も地域で共に生きることに取り組んでいらっしゃいます▼基地の荒れた土地に豊かな自然がよみがえるように、温かい人の心は他の心にも伝わると信じます。（芳）

スタッフ
編集　大久保清志／清水恵美子／中薫子
デザイン　池田隆男（WATER DESIGN ASSOCIATES）
　AMNET design factory
写真　五来孝平

えくてびあん (c) 6月号
第24巻　通巻259号
平成18年6月1日発行
発　行　えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人　芳賀敏博
発行人　加賀悦也
印　刷　(株)大廣社

無断転載を禁じます。



【かのこ】

豆や栗は宝石のよう。甘くつややかに煮上げられると、磨きのかかったデザインジュエリーになる。見ているだけでも心を和ませ、口にすれば笑みを誘う。立川駅のすぐ近くにありながら強制疎開をのがれ、創業百年をこえて味を守り続ける。

（日の出屋本店／曙町）

立川和菓子ものがたり

目に美しく食して美味 ⑤

【ごまだれ餅】

ひとくち大の小さなおもちは、冷凍されてカチカチに凍っている。日差しが強くなるこの時期、お茶の用意をしているうちに常温で食べごろに。ポンと口に放り込む。つるんと舌に転がって、噛めばトロリと濃厚なごまあん。口の中がひんやりとした。

（やな瀬／錦町）

写真：五来孝平